

研修名 マネジメント研修 他専門機関との連携・協働

平成29年5月10日(水) 13:30~15:00

講演 「学力の経済学～子育てに必要なエビデンス」

講師 慶応義塾大学 中室 牧子氏

1、講演要旨

現在、わが国では教育にあまりお金をかけておらず、各家庭の家計によっても差がみられる。教育への投資は、個人だけではなく周りにも効果があるため、もっと幼児教育の質を上げる事が重要である。

また、教職員の質を上げる事により、就学前教育を充実させ、質の高い教育が受けられるため、人として不可欠である“非認知能力”が高く身につくと考えられる。この非認知能力は、長い期間をかけて将来 子ども達の財産になるため、お金をかけるなら、より効果が高い投資を行うべきである。

子育てに対する親の考え方は様々であるが、“足場を組んでやる”ことが一番重要であり、一般的に高学歴・高収入の親はこれを実践していると考えられる。高学歴・高所得の親は、“子どもの生活時間は親がデザインするものだ”という考えから、教育にもかなり熱心であり、これにより、質の高い教育を受けさせようとするため高学歴の親の元で育った子どもは認知能力が高くなる。逆に、“子は放っておいても育つ”という考え方は、低学歴・低所得の親に見られる考え方が多く、教育にあまりお金をかけようとしないため、認知能力が低い子どもが育つ。

ただ、いくら認知能力が高くても、幼少期にしっかりと非認知能力を身に付けておかないと、社会に出た時に自制心が働かず、仕事などをやり抜く力(グリッド)がなく、様々な面において支障が出てくると考えられる。従って、認知能力だけではなく、就学前にしっかりと非認知能力を身に付けさせる教育が必要である。

2、感想

学力の経済学に関する内容は私には少し難しい内容でしたが、私たち保育士の仕事がいかに子どもの将来にとって重要な役割を果たしているかということがわかりました。日常の保育を通して、うそをつかない、挨拶をしっかりする、時間を守るなど、当たり前のことが身についていくことで、後に非認知能力として子どもたちの財産になるので、そのことも踏まえながら今後の保育も頑張っていきたいと思います。

(記録 八幡保育園 多田 裕子)

